



## イルカたちと泳いだよ

SOE主催◎第2回三宅島エコツアー◎7月19～21日



猛暑の日々が続く今年の夏、第2回目になる三宅島エコツアーを開催しました。

今年三宅島の“ナツ”を体験できるドルフィンスイムをメインに三宅島の魅力をたっぷり満喫出来るツアーになりました。

三宅島から南へ約20kmに位置する御蔵島周辺には野生のミナミバンドウイルカが約160頭ほど生息し

ています。ミナミバンドウイルカは南太平洋やインド洋等温暖の海に生息していますが、日本では伊豆諸島や小笠原諸島でよく見ることが出来ます。今回のツアーの目玉はこのイルカ達と一緒に泳ぐドルフィンスイムです！

ツアー参加者の方達には三宅島到着後三宅島のビーチで、第一回目ツアーでお世話になった穴原なつさん指導のもとシュノーケルの練習を重ね、午後御蔵島周辺まで船で向かって行ないました。御蔵島周辺のイルカ達は人なつこく近くまで寄ってくれたので、参加者のみなさんも大興奮です。ドルフィンスイムは6回くらいイルカの群れを見つけるとは船から海に飛び込みイルカを探し泳ぐということをしします。イルカの親子連れの群れ等何度も見つけることができ、今回本当にたくさんのイルカ達と遊べました。僕自身小笠原諸島にも行ったことがあり、野生のイルカと泳ぐことが出来ますが小笠原の海は広いのでなかなか遭遇できません。



三宅島2日目の午前中はガイドの西村ひとみさんを迎え、トレッキングを行ないました。トレッキングは三宅島の噴火の跡地でもある阿古中学校跡や甌の穴などを回りました。歩いている途中、アカコッコ等貴重な鳥を見ることが出来たり、伊豆諸島の島々の火山の地質の種類、三宅島の噴火の歴史等さまざまなことを教えてもらいました。三宅島は噴火ととなり合わせの環境にありますが、それ以上に魅力あふれる所が多くあると今回のツアーを終えて感じました。参加者の方々も今回のツアーだけではまだまだ三宅島のことを知れなかったのもっと島の文化や祭りに関してふれたいと感想を述べてくださいました。



僕自身三宅島のことをもっともっと知りたくなるようなツアーになりましたし、次のツアーについても島の文化について深く考えるツアーにして行きたいと思います。

# 今、私がやれることは



家政大学で、SOEの話を真剣に聞く学生たち

## 7月13日(土) 東京家政大学 生涯学習概論で SOEが授業

暑い夏を迎えたこの時期、日本女子大学に続き、環境教育学科の学生も多数受講している東京家政大学准教授 宮地孝宜先生ご担当の「生涯学習論」授業の中で、タイトルのテーマで、102名の学生にプレゼンテーションを行いました。センスオブアースが歩んできたこれまでの活動とその

理由、活動に参加してきた学生スタッフや若手社会人の活動を紹介し、「私たちは、子どもたちの不登校やいじめ、学級崩壊の現実を見て、”今、子どもたちのために私に何ができるのだろう”と問いかけてきた結果が、この環境学習の提供だったこと、みなさんも今、できることは何だろう。」と学生たちに問いかけました。

学生たちは、非常に純粋にこの問題提起を受け止め、真剣に自分の問題として考えている様子が浮かび上がりました。以下学生たちのミニレポートより抜粋です。

### スタッフとして参加した学びを語る学芸大生



○環境の破壊と人間の破壊がこんなにも深く関係しているとは思わなかった。小さなことでも環境に触れて、環境のことを理解することが本当に大切なことだと言うことが分かった。今後は、自分に今何ができるのかを考え、自分の学んだことを最大限に生かせることをやっていきたいと思う。学生にもできることがこんなにもたくさんあるとは思っていなかった。

○生物に触れると命の大切さをよく知ることができ、やさしい心ができるということは本当にその通りだと感じた。たくさん子どもたちに生きものに触れてもらう機会をつくってあげたいと今できることとして考えました。



子どもたちと一緒に感じ学んだ日本女子大生

# 何だろう



実践を語る若手社会人スタッフ

- 今、学ぶべきことをしっかり学んで自分も環境や自然のことについて伝えていけるような人間になりたいなと思った。
- 自然と触れ合ううちに、「何かを守らないと」という気持ちがめばえるので、協力的な、人間形成ができていくことに気付かされました。
- まずしっかり学んで、じっと考えるのではなく、とにかく実践、やってみることの大切さを学びました。その実践で失敗したり、反省したりすべき点をまた学んで… の繰り返しは人生なのかなと思いました。

- 環境教育を通じて学習の意欲を高めていてすごくよい活動だと思いました。いじめ・不登校・学級崩壊の問題について考えた一つの答えが環境教育だということだ。
- 今自分ができることは何だろうと考え、やってみよう様々なことに参加することで、知識だけでなく新しい自分の考え方や心の豊かさ、人との交流など思いもよらぬ多くのことが経験できることが分かりました。環境について考えることは多くの人格形成につながる事が分かった。
- 自然環境と学校というのは接点があって、いっしょに成長できるんだなと感じました。私は環境教育学科として、NPOの活動に興味を持ちました。
- 環境教育の学習内容が非常に面白く今後、活動していきたい。
- いじめ問題に関心を持っているため、寺田先生の「人の心は環境の問題と深く関係がある。」という言葉に感銘を受けました。自然環境の崩壊と子どもたちの心の崩壊を結び付けて考えたことがなかったので、凄いお考えだと思いました。
- ビオトープをみんなで作ったことにより、学級内のいじめが減ったことに凄いなと思った。子どもへ環境、自然とかかわるきっかけをつくること、紙芝居で生きものと自然の関係を伝えていくことは子どもたちにとっても、とてもよい経験であると思った。
- 紙芝居を自分たちで作ったり、新しい遊びを考えたりするのはとても楽しそうだ。



# 上板小5年「食べ物はどこから」 7月18日(木)



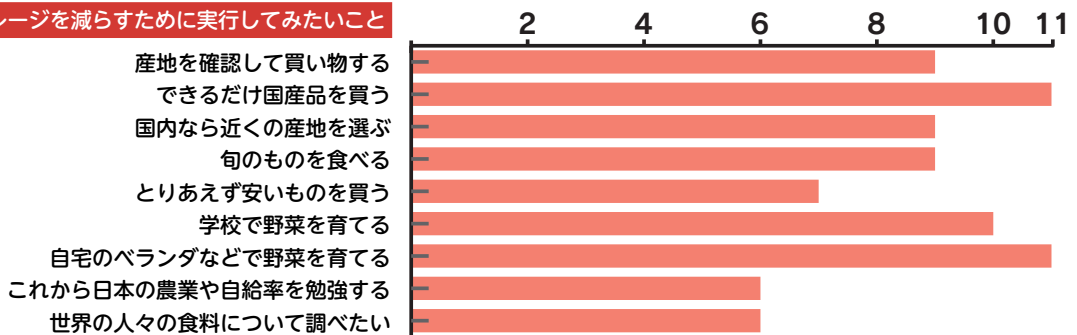
1学期授業最後の日、上板小5年生は、20名が真剣に、食べ物はどこからきているかを調べる、地図づくり、買い物ゲームを行いました。フードマイレージは食べものを運ぶ距離のこと。



## (子どもたちの感想から)

◎これからはなるべく家の料理を残さないようにして、フードマイレージを減らしたい。 ◎今まで自分たちが口にすることがどこでつくられたか、と子で採れたかなどはあまり気にしたことがなかった。なるべく国産品を買うようにするために少し産地を気にして選ぶようにしてみよう。 ◎スーパーのチラシを切るのは楽しかった。ゲームはすごく楽しかった。 ◎国産品だとどれくらい省エネか。 ◎もう少し授業をやりたかった。 ◎地球温暖化の原因が二酸化炭素でゲームでは点数が多いほどよいと思ったけど、環境に関わっているということがおもしろかった。 ◎もっと、食べ物はどこからをやりたい。

## フードマイレージを減らすために実行してみたいこと



# 志村坂上保育園4・5歳児 7月4日(木) 「原っぱのオニゴッコ」(生きもの探し)



今年から登場した幼児向けいきもの探し・「原っぱのオニゴッコ」を、北区自然観察公園で実施。42名の園児たちは、キロリのおにごっこで広い草はらを思い切り走りまわりました。新しい紙芝居「はらっぱのオニゴッコ大会」を静かに聞いた後、生きものがかくれている場所をそっとさがしにグループで行動。参加された保護者の方も、楽しそうに一緒に活躍。大地に寝ころんで虫になった池田園長先生をはじめ子どもたちの姿が印象的でした。雨により帰園してからのふりかえりになりましたが、みんな「ムクドリ・モンシロチョウ・カラス・シロツメグサ・ダンゴムシ・アリ・バッタ・ムカデ・カナブン」たくさんお話してくれました。



## 発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: [info@npo-soe.jp](mailto:info@npo-soe.jp) url: [npo-soe.jp](http://npo-soe.jp)